



活力ある秋田 Vol. 54

世界に誇れる

秋田の「お・も・て・な・し」

[秋田市観光クチコミ大使] テレビ朝日映像(株)

常務取締役エグゼクティブプロデューサー

早川 忠夫氏

秋田県に秘められた魅力

生まれ育った秋田を離れ、東京を拠点にしてから久しくなります。川反に近い池永小路にあった実家もすでに引き払い、「地元」はさらに遠くなりました。以来、故郷を訪れるたびに寂寥の念が募ります。私の生活圏であった秋田市内の中心街も昔の賑わいを見ることは少なくなりました。

そんな中 2010 年、高校まで同級生だった三浦廣巳君（秋田日産自動車(株)会長）の協力のもと、秋田県と連携してテレビ番組を企画制作する機会に恵まれました。テレビ朝日の『ちい散歩』で俳優・地井武男さんと共に角館町と増田町を散策、翌 11 年には大館市と藤里町を訪れました。残念なことに地井さんは 12 年急逝、三度目の秋田散歩は叶いませんでした。しかしこの年、BS 朝日『城下町にいこう』で角館編を放送。出演のピエール瀧さんは、ご存知のようにNHK連続テレビ小説『あまちゃん』で大人気を呼びましたが、今年夏、このタイミングで、念願の「秋田編」が実現しました。久保田城（千秋公園）から竿燈、食文化に至るまで秋田の魅力がふんだんに伝えられたと実感していますが、これも佐竹知事をはじめ多くの方々の情熱とご協力の賜物と感謝しております。



「門外不出の秋田」に活路あり

撮影の合間、新鮮な驚きがありました。ある夜、小料理屋で県内産の日本酒を飲む機会がありました。一口吸ると芳醇な香りが鼻に抜け心地よさが喉を通り抜けていく極上の味わい。さぞかし銘酒かと聞けば、県外で商売できるほど数は作ってい

ないという何とも素気ない答え。同行したディレクターはこれまで数々のグルメ番組を手掛けてきた食い道楽、その彼が東京から数万円の交通費をかけても食べる価値があると言ったのは 3,000 円ほどの郷土料理コースでした。

飾らない城下町を往く気取らない秋田美人の姿は男性ならずとも癒される思いがしますが、秋田県人ならば当たり前のように享受している「心地よさ」にこそ、人々を引き寄せ、かつての賑わいを取り戻す原動力が秘められているような気がします。この言わば「門外不出の秋田」の魅力をどう伝えていくのかは今後の観光PRの課題になるでしょう。

秋田の「お・も・て・な・し」

2020 年東京五輪の開催が決定し、すでに全国で世界を相手にした観光誘致が始まっています。その意味で、秋田が世界に誇る藤田嗣治作品を収める新県立美術館は魅力的な観光スポットとなり得るでしょう。また、間口の広いメディア戦略によって、秋田の魅力を世界に伝えることはもちろん重要ですが、ネットに代表される個人の情報発信力を積極的に活用し、秋田を体験した人々が感じた「心地よさ」をいかに発信してもらうかを考えることもとても重要だと思います。

「秋田のおもてなし」は世界から訪れる人々に十分通用するものと私は信じています。

■略歴

昭和 26 年 秋田市生まれ

高校(県立秋田高校)まで秋田在住

早稲田大学第一政経学部 卒業

これまで数多くの情報系テレビ番組、ドキュメンタリー番組を演出・プロデュース